

# 教育民生委員会 行政視察報告

4月13日に野々市市、5月23日から25日にかけて、福岡県久留米市・熊本県玉名市・福岡県福岡市を委員5名、事務局随員1名で視察してまいりました。

## ■野々市市

「学びの杜のいちカレード 図書館について」

学びの杜のいちカレードは、図書館と市民学習機能が融合した新しい形の生涯学習施設で、図書館を核に市民が協働するための多様な施設でありました。

この施設は、PFI方式を採用して整備されたもので、民間企業が持つノウハウを活用し、低廉かつ良質な公共サービスの提供を目指しているそうです。



学びの杜のいちカレード

## ■福岡県久留米市

「救急医療体制とドクターカーについて」

久留米市の救急搬送は、全国トップレベルの迅速さであり、その要因としては、現場直近の救急車への出動指令、救急隊

への現場対応の教育、救急活動の事後検証を行うほか、恵まれた医療環境の存在が挙げられるとのことでした。生存率についても平成27年から運行を開始した「久留米市ドクターカー」の効果により全国トップクラスです。



福岡県久留米

高度化する救急業務への対応としては、IC T画像伝送システムを活用し、運用することで、情報伝達の時間短縮に効果を発揮しており、救命率の向上及び救急体制の発展に繋がっているとのことでありました。

## ■熊本県玉名市

「学校規模・配置適正化基本計画について」

玉名市学校規模・配置適正化基本計画において、玉陵校区では6つの小学校を統合し、平成30年4月に玉名市で3番目の児童数の小学校「玉陵小学校」として開校しました。また、小学校校舎は、

玉陵中学校と渡り廊下でつながっており、玉名市初の施設一体型の小中一貫教育を推進する学校でもあります。

玉陵小学校区の統合にあたり「新しい学校づくり委員会」を発足させ、総務、PTA・通学、教育、事務、跡地利用など、それぞれの部会を設け議論を行うほか、各小学校区への説明会や意見交換会を重ね、地元及び保護者の方々の理解を図りながら進められていきました。その一方で、玉名市議会にて、平成25年に見直しを求める決議案が全会一致で可決しました。平成26年度には、一般会計予算の修正動議が提出された後、修正を経て開校となりました。

統合に向けて丁寧な説明を重ね、地元及び保護者の方々の理解を得ること、児童生徒の教育機会の均等と教育水準の維持向上を念頭に置き進めなければならないとのことでありました。



熊本県玉名市

## ■福岡県福岡市

「小学校英語教育について」

平成32年度より国の新学習指導要領により実施される小学校英語教育について、福岡市では来年度より市内全小学校で先行実施されます。

現在、市内小学校では、新学習指導要領より少ない時間で英語教育を行っており、各学校で独自に招聘する英語が堪能な英語指導助手のゲストティーチャー「GT」に加え、それに対し教育委員会から委託を受けた、民間の会社から配置される英語を母国語とする外国人英語指導講師のネイティブスピーカー「NS」を配置し、英語力を養っているとのことでした。

NSについては、新学習指導要領の新教材に合わせた指導法の研修を受けており、英語教育に対し試行錯誤で取り組む学校や担任においては、心強い存在となっていました。その他では、学校側の希望を事前に受託会社に伝え合意を取れば、NSは校内活動や学校行事への参加も可能で、実際に、児童との交流及び、教員対象の英語力と指導力に関する研修を行っていました。

今後も、市では、英語教育を充実させ、児童たちに、英語を慣れ親しませていきたいとのことでありました。

## ■視察を終えて

今回の視察は、委員会の目標テーマを考える上で、先進地の取り組みや特色等を聞くことができ、大いに参考となるものでありました。これらを、今後の研究等に活かしていきたいと思えます。